

【概要】

1. 新規採用薬 : テトラミド錠 / アイリーア 8mg  
外来限定採用 : フェンロデックス / アレジオン眼瞼クリーム / セムブリックス / アルメタ軟膏
2. 供給
3. 採用変更
4. 添付文書改訂
5. 添付資料

1. 新規採用

①院内採用

四環系抗うつ剤

テトラミド錠 10mg 10.10 円/錠

【組成】ミアンセリン塩酸塩 10mg

【禁忌】MAO 阻害剤(セレギリン塩酸塩、ラサギリンメシル酸塩、サフィナミドメシル酸塩)を投与中あるいは投与中止後 2 週間以内の患者

【効能効果】うつ病・うつ状態

【用法用量】1 日 30mg を初期用量とし、1 日 60mg まで増量し、分割経口投与。1 日 1 回夕食後あるいは就寝前に投与。

眼科用 VEGF 阻害剤

アイリーア 8mg 硝子体内注射液 114.3mg/mL 181,763 円/V

【組成】1 バイアル(0.263mL)中アフリベルセプト(遺伝子組換え) 30.1mg

【禁忌】

- 1 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者
- 2 眼又は眼周囲に感染のある患者、あるいは感染の疑いのある患者[眼内炎等の重篤な副作用が発現するおそれがある。]
- 3 眼内に重度の炎症のある患者[炎症が悪化するおそれがある。]
- 4 妊婦又は妊娠している可能性のある女性[9.5 参照]

【効能効果】

○中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性

○糖尿病黄斑浮腫

【用法用量】

アフリベルセプト(遺伝子組換え)として 8mg(0.07mL)を 4 週ごとに 1 回、通常、連続 3 回(導入期)硝子体内投与するが、症状により投与回数を適宜減じる。その後の維持期においては、通常、16 週ごとに 1 回、硝子体内投与する。なお、症状により投与間隔を適宜調節するが、8 週以上あけること。

②外来患者限定採用

乳癌治療剤

フェンロデックス筋注 250mg 38,401 円/筒

【組成】1 筒(5mL)中フルベストラント 250mg

【効能効果】乳癌

【用法用量】成人には本剤 2 筒(フルベストラントとして 500mg 含有)を、初回、2 週後、4 週後、その後 4 週ごとに 1 回、左右の臀部に 1 筒ずつ筋肉内投与する。なお、閉経前乳癌に対しては、LH-RH アゴニスト投与下で他の抗悪性腫瘍剤と併用すること。

**持続性・経眼瞼アレルギー性結膜炎治療剤**

アレジオン眼瞼クリーム 0.5% 1686.70 円/V

【組成】 1g 中 エピナスチン塩酸塩 5mg

【効能効果】 アレルギー性結膜炎

**抗悪性腫瘍剤 チロシンキナーゼインヒビター ABL ミリストイルポケット結合型阻害剤**

セムブリックス錠 20mg 5,564.5 円/錠

【組成】 アシミニブ塩酸塩 21.620mg(アシミニブとして 20mg)

【効能効果】 前治療薬に抵抗性又は不耐容の慢性骨髄性白血病

**皮膚外用合成副腎皮質ホルモン剤**

アルメタ軟膏 22.20 円/g

【組成】 1g 中アルクロメタゾンプロピオン酸エステル 1mg

**2. 供給**

**●出荷調整**

・アジスロマイシン錠 250 mg「トーワ」

・グラニセロン点滴静注液 3mg バッグ「アイロム」：原材料調達上の問題のため、在庫消尽次第出荷停止

**●販売中止**

・スポンゼル：販売継続困難のため、在庫消尽次第販売終了。販売中止予定時期 2025 年 9 月  
→OPE 室にて使用。代替薬であるサージセル・アブソーバブル・ヘモスタット MD は用意済。

**3. 採用変更 ※①-③:在庫消尽次第切り替え ④:在庫消尽次第終了**

**①内服**

・オランザピン錠 2.5 mg「VTRS」 → オランザピン OD 錠 2.5 mg「VTRS」

[後発薬メーカー変更]

・グリクラジド 20 mg錠「トーワ」 → 「サワイ」：販売終了に伴う変更

・ナフトピジル錠 25 mg「杏林」 → 「日医工」

・レベチラセタム錠 500 mg「フェルゼン」 → 「日医工」

・ガランタミン OD 錠 8 mg「サワイ」 → 「アメル」

[院外採用]

・イグラチモド錠 25 mg「サワイ」 → 「ケミファ」

**②注射**

・ネオレスタール注射液 10 mg(94 円/菅) → ポララミン注 5 mg(69 円/菅)：販売終了に伴う変更

[後発薬メーカー変更]

・クリンダマイシンリン酸エステル注 600 mg「F」 → 「サワイ」：販売終了に伴う変更

**③外用**

[後発薬メーカー変更]

・プリモニジン酒石酸塩点眼液「日新」 → 「日点」

**④院内採用終了（在庫消尽次第採用終了）**

該当なし

#### 4. 添付文書改訂

ロスバスタチン錠 2.5mg,5mg「杏林」(先発名:クレストール)

●10.2 併用注意(併用に注意すること) 追加

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
チカグレロル	本剤の血漿中濃度上昇により横紋筋融解症やミオパチーのリスクが増加するおそれがある。	チカグレロルがBCRPを阻害することにより本剤の排出が阻害され、本剤の血漿中濃度が上昇する可能性がある。

ミニリンメルト OD 錠 25 μg,50 μg

●10.1 併用禁忌 追加

アテキュラ・エナジア :低ナトリウム血症が発現する場合がある(機序不明)

イコサペント酸エチルカプセル 300mg,粒状カプセル 300mg,600mg,900mg「サワイ」

●11.1 重大な副作用 追加

11.1.2 心房細動(頻度不明)、心房粗動(頻度不明)

イコサペント酸エチル(4g/日注)の海外臨床試験において、入院を要する心房細動又は心房粗動のリスク増加が認められたとの報告がある。また、イコサペント酸エチルを含むオメガ-3 脂肪酸の国内外臨床試験において、心房細動のリスク増加が認められたとの報告がある。

注)高脂血症において本剤の承認された1日最高用量は、2,700mgである。

オキシドン徐放錠 5mg,10mg,20mg,40mgNX「第一三共」

オキノーム散 2.5mg,5mg,10mg,20mg

●11.2 その他の副作用

頻度不明 :オッジ筋の機能不全

オーグメンチン配合錠 125SS,250RS

●11.2 その他の副作用 追加

頻度不明 :浮動性めまい、多動

アネメト口点滴静注液 500mg (先発名:メロニダゾール)

●11.2 その他の副作用 追加

頻度不明 :耳鳴、難聴

バリキサ錠 450mg,ドライシロップ 5000mg (先発名:バルガンシクロビル塩酸塩)

●2.禁忌(次の患者には投与しないこと)

2.3 マリバビルを投与中の患者(10.1 参照)

●10.1 併用禁忌 追記

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
マリバビル(リブテンシティ) (2.3 参照)	併用により、本剤の抗ウイルス作用が阻害されるおそれがある。	マリバビルは、本剤の活性化又はリン酸化に必要なウイルス由来のUL97を阻害する。

モルヒネ塩酸塩注射液 10mg,50mg,200mg「タケダ」

●10.2 併用注意 追加

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
クロピドグレル硫酸塩 チカグレロル プラスグレル塩酸塩	左記の薬剤の血漿中濃度を低下させる可能性がある。	本剤の消化管運動抑制作用に関連すると考えられる。

5. 添付資料

院内採用薬の供給停止・出荷調整薬について(2024年11月22日更新)

医療安全情報 No.216 「永久気管孔のある患者への無効な換気」

医薬品・医療機器等安全性情報 No.414